

クビアカツヤカミキリ

目科名：コウチュウ目カミキリムシ科
学名：Aromia bungii
原産地域：中国、モンゴル、朝鮮半島等

【どんな被害を引き起こすのか】

産 業：果樹への被害

- ・ウメ、モモ、スモモの生産量の大幅減少
- ・生きた木に幼虫が食い入り、形成層を食害することで樹木を衰弱させる

生 活：公園木や街路樹の枯死

- ・サクラを枯死させるおそれ

【どこまで広がっているか】

長野県では

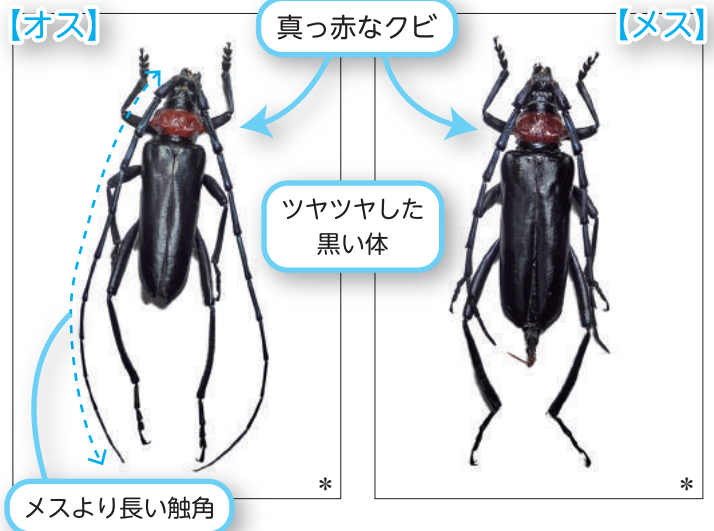
- ・2019年12月現在、確認なし

全国では

- ・2012年に愛知県で発見
- ・その後、埼玉、群馬、栃木、茨城、東京、三重、大阪、徳島で確認(奈良、和歌山は成虫のみ確認)



2019年現在
定着



- ・体長 2.5 ~ 4.0cm (メスの方が大きい)
- ・オスの触角は体の 1.5 ~ 2 倍の長さ
- ・メスの触角は体と同じかやや長い程度

【特性(成虫・幼虫)】

- <成虫> ・昼行性 ・触角を立てて歩く ・素早く動く
 ・つかむとキーキーと音を出し、噛みつくことがある
 ・強い臭いがある液体を出す
- <幼虫> ・生きている木に侵入し、中を食い荒らす



成虫



切株から出てきた幼虫

【特性(フラス)】

- ・幼虫が木の中を食い荒らす際に、穴から大量のフラス(木くずと糞が混ざったもの)を出す
- ・フラスは株元に大量に溜まる

- ・色は、明るい色
- ・かりんとうのような形状
- ・薄い木くず片を多く含む



株元に溜まったフラス



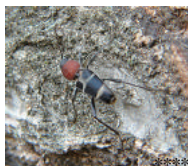
フラス

【間違わないで！】

●大きで見分ける

見た目はやや似ているが、大きさが全く異なる

クビアカ
トラカミキリ
(在来種)
体長
0.7~1.3cm



ホタル
カミキリ
(在来種)
体長
0.7~1.0cm



チャイロ
ホンヒラタ
カミキリ
(在来種)
体長
0.8~1.5cm



ベニ
カミキリ
(在来種)
体長
1.3~1.7cm



●フラスで見分ける

似たようなフラスを出すのは、コスカシバとウスバカミキリ

コスカシバ(在来種)



色：部分的に暗い色が混じる
形状：木くずが少なく顆粒状の糞を多く含む

ウスバカミキリ(在来種)



色：クビアカツヤカミキリと同様に明るい
形状：繊維状の木くずを多く含む

【発見したときは】

- 疑わしい成虫やフラスを見付けたら、大きさが分かるよう写真を撮り、お住まいの市町村または県地域振興局環境課に連絡する
- 成虫の発見時は、被害拡大防止のため、熱湯や農薬登録された殺虫剤、踏み潰す等で可能な限り駆除する
- 成虫を手で捕まえるときは、背中側からつまむと噛まれにくい（虫をつかんだ手で目をこすらない）
- ほかの成虫が発見現場の周りにいないか観察する

※クビアカツヤカミキリは外来生物法により、生きたままの運搬や飼育、保管等が禁止されているので注意

【生活史】

※生活史は、長野県以外の地域の事例のため、時期がずれる可能性あり

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
 <p>被害木の樹皮を剥ぐと、たくさんの坑道（幼虫が食べ進んだ痕）が確認できる</p>												
						成虫						
						幼虫						
						・ 樹木の中で1～3年生活					・ 冬の間は休眠	
									<ul style="list-style-type: none"> ・ 羽化した成虫は、すぐに交尾を開始 ・ 樹皮の隙間に産卵 ・ 産卵数は非常に多い（飼育下例で1回1000個以上産卵） ・ 成虫の寿命は2週間以上 			

【防除方法】

通報 早期発見が最も重要！

- 胸部の赤いカミキリがいたら、市町村または県に連絡をする ※捕獲しても生きたまま別の場所へ移動させないこと

ネット巻き・捕殺（5～8月） 根絶を目指す

- 羽化して樹木から出てきた成虫を捕獲するために、幹にネット（網）を巻く
 - ・ 防風ネット（目合い4～5mm程度）、針金、ひも、ペグ等を準備する
 - ・ 幹を2～3周、高さ1.5～2m程度まで巻けるサイズに、ネットを切る
 - ・ 幹が二股や三股に分かれている場合は、股の部分にもネットをかける
 - ・ ネットを巻付けるときは、木に密着しすぎないように巻く（上はきっちり、下はふんわり巻くと良い）
 - ・ 上の端は、ひもでしっかり固定して隙間ができないようにする
 - ・ 下の端はペグ等で地面との隙間がないようにしっかり固定する（裾は内側に織り込む）
- 成虫は、ネットを食い破って脱出したり、ネット内で交尾・産卵することもあるため、成虫の有無を定期的に点検し、ネット内の成虫を駆除する
- 捕獲した成虫は、熱湯や農薬登録された殺虫剤、踏みつぶす等、その場で駆除する



ネット巻き

薬剤処理（4～9月） 根絶を目指す

- フラスが出ている穴（排糞孔）に薬剤*を注入して幼虫を駆除する
 - ※ 農業を行っている場所で散布する薬剤については登録された薬剤でなければならない
 - ・ フラスを千枚通し等で除去する
 - ・ 薬剤のノズルを差し込み、孔から薬液が溢れるまで注入する
 - ・ 落ちているフラスをブラシ等で掃う（フラスの排出が継続するかを観察するため）
 - ・ 数日後にフラス排出の有無を確認（フラスが出続けていたら、同じ作業を繰り返す）



排糞孔

伐倒処分（11～3月） 根絶を目指す

- 幼虫が休眠している時期に、樹木ごと処分する
 - ・ 切断した幹や枝からも羽化する可能性があるため、伐採後はすみやかに破砕や焼却処分する
 - ・ すぐに焼却処分等ができない場合は、ネットやビニールシート等で伐採した樹木を覆って羽化や逸出を防ぐ
- 伐採後の切株も注意
 - ・ 羽化等を防ぐため、なるべく根も掘り起こす
 - ・ 掘り起こせない場合は、切株をビニールシート等で覆い、さらにネットで2重に覆う

※クビアカツヤカミキリは、生きたままの運搬、保管が禁止されているが、下記の要件を全て満たした場合のみ例外的に「運搬」「保管」に該当しない

- ・ 樹木内にいるクビアカツヤカミキリが、その場での殺処分困難な場合、拡散や逸出を防ぐための対策が取られていること
- ・ 目視で確認できる個体の殺処分を行っていること
- ・ 防除の実施主体、実施日時等を関係者に事前に周知していること